

徳用クヤダ遺跡とは

徳用クヤダ遺跡からは、縄文時代から江戸時代にいたる人々の生活の跡（遺構）や道具（遺物）が見つかっています。

縄文時代のものとして土器や石器が見つかっています。弥生時代には小規模ながらも集落が営まれました。奈良時代になると古代北陸道（中央と地方の間の行政業務にのみ使用する官道）が整備され、この道路は市内の押野方面から徳用にかけて直線に通っていたようです。本遺跡内からは、この道に近接する場所から掘立柱建物がみつかっています。

室町時代になると、遺跡内は地域有力者層と庶民が暮らした大規模な集落が営まれるようになりました。

江戸時代になると遺跡内は集落から田畑へと変わり、集落は南に移りました。集落付近には北国街道が整備され、多くの人々が行き交うようになりました。

